

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471901338
法人名	社会福祉法人 三磯会
事業所名	グループホーム みうら富士
訪問調査日	平成 19 年 11 月 14 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 18 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	1471901338
法人名	社会福祉法人三磯会
事業所名	グループホーム みうら富士
所在地	神奈川県横須賀市長沢 6 - 45 - 6 (電 話) 046 - 848-3933

評価機関名	社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4 - 2		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成19年12月18日

【情報提供票より】(平成19年10月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 7 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.2 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円		その他の経費(月額)	61,000 円	
敷 金	有(円)		無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000 円		有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,500 円				

(4) 利用者の概要(19年10月12日現在)

利用者人数		9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1		2	名	要介護2	1	名
要介護3		2	名	要介護4	1	名
要介護5		3	名	要支援2	0	名
年齢	平均	84.8 歳	最低	67 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	横須賀市民病院、田澤歯科医院、三輪医院(内科)、福井記念病院(精
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療と福祉の一体的、総合的なサービス提供を目標として設計された施設である。
清潔感ある空間と童謡が静かに流れる穏やかな雰囲気の中、「人生の先輩としての敬意と、ゆったりとした付き合い」を運営方針として、職員全員で家族的な雰囲気を目指してサービス提供を行っている。
一人ひとりの健康状態を確認するため、食事量、水分摂取量を記録すると共に健康状態の変化に応じ、随時介護計画を見直している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果を受けて、厨房機器、調理器具類の消毒実施の確認が出来るように日誌に記入欄を設け、チェックするように改善している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者より職員に、自己評価の意義を周知徹底し、職員全員で評価に取り組んだ。職員は課題を話し合い、前回の取り組み課題の評価項目の改善に取り組んだ。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 北下浦地区のグループホーム6事業所合同による運営推進会議を開催し、3事業所の見学会と各事業所の介護ノウハウについて意見交換会を行った。意見交換ではターミナルケアへの取り組み方や施設ごみ処理の仕方などを話し合い、見学会では自施設の長所、短所と目指すべき方向の認識をした。職員には議事録を配付し、内容の共有化をはかっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 利用者や家族等からの意見・苦情等は、玄関に意見箱を設置すると共に苦情受付窓口を掲示している。また、家族会を開催し、意見・要望等を伺い、運営に反映出来るように体制を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭り時には、お神輿に施設の敷地まで入ってもらったり、近隣中学校の体験訪問の受け入れや、ボランティアによる歌、踊りの訪問などを通して、地域との交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりの生活の仕方を尊重し、その人らしく生き生きと豊かな暮らしが送られるように支援する」という独自理念をもって、日々のサービス提供を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員室と玄関ホールに掲示し、職員間で常に話し合い共有化をはかっている。「その人らしく」を念頭に日々の利用者支援を行っており、ケアプランの作成にも反映している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の多くが重度化により外出が困難になってきているが、お祭り時にはお神輿にホームの敷地まで入ってもらったり、近隣中学校の体験訪問の受け入れや、ボランティアによる歌、踊りの訪問などで、地域との交流をはかっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者より職員に評価の意義を周知し、理解を深めている。全員で自己評価に取り組み、課題を職員間で話し合い改善に取り組んでいる。改善事例として、厨房器具の消毒実施を業務日誌にチェック欄を設けて、点検確認を行えるようにした。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	平成19年2月20日に第3回下北浦ブロック運営推進会議を、市職員、地域包括支援センター、民生委員、行政センター地区の6グループホーム代表で行い、ブロック内グループホーム3事業所の見学会と意見交換会を行った。職員には会議録を配付して報告をしている。グループホームごとの運営推進会議の開催に向けて、市の説明会が12月に予定されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市連絡協議会への参加や市連絡協議会企画の研修会に参加しており、また、市の窓口担当者とはグループホームの空き室情報、研修案内などで常に連絡を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回、金銭管理の請求書・領収書とともに、利用者の様子やホーム内での暮らしぶり、職員の異動などの状況報告をしている。体調不良や怪我等の緊急時は随時電話連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、不満、苦情等は、玄関に意見箱の設置と苦情受付窓口を掲示し対応している。3ヶ月に1回家族会で意見・要望等を伺って運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員がストレスを溜めないように、何でも話し合えるよう会話と、季節に応じたレクリエーションなどを心がけている。利用者には、職員の退職などによる不安を与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用時は、先輩職員による1週間程度のOJTを行っている。入職後は、嘱託医による勉強会や地区同業者の小規模研究会(認知症研究会)が企画の研修、県や市、市連絡協議会が企画の研修への参加を促し、受講後は報告書の回覧と朝会で報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、地区同業者との交流会に参加しているほか、地区の研修会(認知症研究会・よこすか)などにも参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に不安がある際には、希望によりショートステイとして入居体験をしていただいたり、職員が寄り添い関わることで、信頼を深めてもらうように対応をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食後の下膳、食器拭きなど出来る人には手伝っていただき、職員は「有難う」と声をかけている。また、人生の先輩として昔の体験話を聞いたり、歌を学んだり、敬う心を基本に、支えあう関係を構築している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思表示が少なくなって来ている利用者が多いが、職員の観察によりきっかけを作り、意向を聞き出して希望に応えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族に確認してもらっている。職員全員による観察結果で、3ヶ月に1回の定期見直しと変化に即して随時見直しを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員全員による観察結果を基に、3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、利用者一人ひとりの健康状態を確認するため、食事量、水分摂取量を記録し、利用者の状態変化に応じて随時介護計画を見直している。排便時の観察から、パット採用への切り替えを現状に即応して行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を受けている。同じ建物内にある同一法人のデイサービスと連携して、重度化した利用者の入浴に機械浴が利用できる。また外出が困難な利用者が増える中で、デイサービス、ショートステイ部門との共同レクリエーションなどで交流を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により、家族対応でのかかりつけ医の継続受診を行えるが、家族の希望で、協力医療機関での受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や主治医と連携を取り、グループホームで最期までみとどけが出来る方針を全員で共有している。グループホームには看護師資格を保有する職員が常駐しており、点滴、酸素吸入、流動食摂取などの支援が行える体制となっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として敬う気持ちを持って言葉かけをしている。介護記録などは目に触れないようにロッカーに保管し、汚れ物などの扱いは、他の利用者に見られないよう各職員が配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や睡眠時間はその人のペースで行われている。訪問調査時の昼食のペースも、一人ひとりに合わせてゆったりと過ごせる支援をしていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、食器拭き、配膳、下膳、テーブル拭きや片付けなどを職員とともにやっている。訪問調査当日の昼食では、職員はその都度感謝の声かけをして、食事と一緒にとり和やかに楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日は決まっているが、気の合った方との入浴や時間帯、好みの入浴剤の使用など、利用者に希望を聞きいて楽しんでもらえるよう支援をしている。重度化した利用者には、同一法人のデイサービスの機械浴を利用して入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の状態に合わせ、塗り絵や貼り絵をしたり、歌を歌ったりテレビ歌番組の録画を見たりして楽しんでいる。訪問調査当日には、近隣ボランティアによる歌、日舞が行われており、楽しんでいる様子を見受けた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	多くの利用者が重度化してきており、日々の散歩外出は困難になっているが、ホーム内の移動や同一建物内にあるデイサービス利用者等との交流などを通じて少しでも外出気分を味わってもらよう配慮している。また外出が可能な利用者は、毎日の食材の仕入れに近くのスーパーに同行してもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関のドアのオートロックを解除し、見守りによる支援をしている。居室には鍵はつけておらず、居間への出入りが自由に出来るようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回ホーム全体で利用者を含めた避難訓練を行い、訓練の記録をしている。ホームには煙感知器、スプリンクラー、誘導灯、緊急連絡回線、地下防火用水槽などを完備しており、玄関に避難誘導路を明示し、職員は避難用各機器の取り扱いを心得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状況に応じて摂食量をコントロールし、水分は3食と10時、15時に摂り、ともにケース記録に記録し、管理している。栄養面での管理は、同一法人のデイサービスの栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室から広い廊下によって台所に接続した居間につながり、大きな窓からは周囲の小高い山が見え開放感と季節感が味わえる。床暖房の採用で利用者の健康管理と心地よさを考慮した工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や思い出の品をお持ち下さいと伝えている。居室には馴染みのぬいぐるみや家族写真が持ち込まれていて居心地よく過ごせる工夫がなされている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみうら富士
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	横須賀市長沢
記入者名 (管理者)	高橋 泰子
記入日	平成 19年 10月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人家が少ない地域のため、同一建物の中にデイやショウアウトがあるのでその利用者様との交流を持つようになっている。	○	開設時はご入居者様のレベルがよく、散歩に出かけたりして近所の方とお会いするとご挨拶をしていたが最近では外出することも出来ない方が多くなってきた。車椅子でも出かけられれば良いと思う。
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしくを常に考え、ケアプランの作成にも取り入れている。		その方の混乱の状況に応じた関わり方をし言葉かけをしている。
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	近所の地域は少ないが、買い物に出かけるスーパーでは顔見知りになり職員より利用者様の方を覚えていただいている。気軽にお話をする。		家族の方々は地域の特性を理解されていて自然の中での生活を喜んでいられます。
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	住民が少ないため近所の方とお会いすることが少ないが、出来るだけお声かけしている。		近所の方は少ないため、施設内の職員・利用者との交流を持っていく。
5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	予防教室に参加したり、お祭りにはおみこしを中まで入っていただいている。		重度化して健民運動会などお誘いはあるが、出向くことが困難なため可能なケースには参加を考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームとしては外部には役立ってはいない。		デイサービス(施設内の)の利用者と交流をもつことによりお互いに役立っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己満足でなく外部の方の評価を頂ければ改善できると思います。		常に改善できることは改善しています。指摘頂ければなおよいでしょう。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が確実に働いておらず、見学会のみで今後活用したいと思っています。	○	今後推進会議を個別にもつことにより積極的な意見がでる事を期待しています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡協議会に参加しており、企画される研修には参加しています。	○	市連絡協議会の企画による交流研修等参加者が多くなって今後さらに向上に取り組めます。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については理解しております。今のところ必要な方はいません。		必要な状況がでた場合取り組む。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に職員を出席したり、職員の会話や態度に十分注意をしています。		今後も研修に参加する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明に当たって十分説明しており理解いただいていると思います。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時苦情申し立て方法を説明しております。利用者様の意見は都度取り入れています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回請求書・領収書とともに利用者様の様子や職員・他の入居者様のことをお知らせしています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時苦情申し立て方法を説明しております。ご家族は家族会でご意見を伺っています。	○	今後推進会議を個別にもつことにより積極的な意見がでる事を期待しています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを開きます。他部門とも月2回定例会を持ち職員の意見は聞いています。	○	今後推進会議を個別にもつことにより積極的な意見がでる事を期待しています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の要望が今までありませんでした。必要な職員は配置しております。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は色々な条件で退職していきます。努力はしますが、条件も許されるものとは限りません。利用者様には不穏を与えないように配慮はしています。	○	職員の退職は本人の都合や条件の不満等ありますが十分話し合いを持ち離職は避けるようにします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市・協議会等の企画される研修には出来るだけ参加するようにしている。		嘱託医による勉強会を企画しています。また小規模な研究会に参加しています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会を活用し、他施設との交流を持つことが出来る。		小規模の研究会(認知症研究会・よこすか)を企画し職員に研修会に参加を促しています。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	極力職員と会話を持つよう心がけている。また季節に応じたレクリエーションを考えている。	○	会食・旅行等希望に応じた計画をしたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格の向上できるよう受験を勧めている。また資格手当を付けている。		お互いが協力できた点や助けてもらったケースについてのカードを出してもらっています。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人はほとんど本心を表現されないし出来ない場合もある。出来るだけ聞きだす努力をしている。		ご家族に今までの生活暦をお出しいただいています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族は困っている最中のためすべてを話してくださるので、十分伺うようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学にこられた時点で相談にのりお手伝いできる部分と出来ない部分を分析し他サービスの利用方法等をお話する。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	特に不安等強い場合はショートとしてご入居していただけることも出来る。		本人が納得することは少ないが、日々安心して生活できるような努力をその方に応じた関わりをしています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本的な態度と思われる。家族・人生の先輩としての関係を持っている。		
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居と同時に家族と距離が出来るわけではなく、常に情報を提供した面会に来ていただきご本人・ご家族に安心していただけるようにしている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご入居前に認知症のために家族間で人間関係が崩れている家族もあるが、出来るだけ面会を勧めたり写真を送ったり溝を少なくする努力をしています。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出を勧めている。長年の入居の方は体力的に対応できない場合もあるが援助は出来る。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士気が合う方を見つけられる。その関係を大事にする。		時には混乱から言い争いになる事もあるが、お席を替わっていただいたりします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで退居された方は特養または入院から死亡の転帰をとられています。その後懐かしく訪問して下さる方もあります。		
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接希望を表現できない方は、日ごろの会話などから察知し、本人の思いに添えるようにしている。		表現できない方の援助の訓練を重ねていきます。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を理解し、経験を活用できるような生活をしていただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入浴・午睡等その人なりのスタイルで考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろケアの場面を理解しているスタッフ同志が検討し、また家族会での意見を組み入れている。		尚強化していきます。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化により計画の見直しは行っている。		特にアセスメント表等は使用しませんが都度変化が発生した場合はカンファレンスを持ち計画の変更もしくは注意事項を検討します。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の援助記録に変化の状況が記録されている。各自計画を立てる際考慮している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	複合型の機能を生かし、各自の要望に添えるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在特に必要な場面はないがケースが出現した場合は協力をお願いします。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	複合型の機能を生かし、外部に依頼することなく支援することが出来ている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後推進委員会等により協働していただけることを期待しています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は特に変更しなくても良いが、往診の条件等で今までの主治医から変更を希望される。ご家族・ご本人の希望は伺っている。また他科の受診については家族対応が基本になっているが不可能の場合は家族の希望により医療機関をきめている。		他部署の関わりで近隣の医療機関との連携があるので比較的受診しやすい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	市内のドクターで依頼により往診もしていただける。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は常勤している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療連携は十分取れている。入院は最短期間としリハビリ等ホームで行う。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	H18年法改正時家族会で同意書の説明をし、重要事項説明書に追加してある。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	変化に応じた対応は出来る。その都度家族の思いを確かめながら支援をしてゆく。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	サマリー・生活暦等を十分活用し情報交換をしながら関わりダメージは与えていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に気をつけ人生の先輩と尊敬している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	迷いの世界にいられることが多いため、その世界に応じた対応の仕方を考え、戸惑いを少なくしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的な日課はなくその日その日皆様の状況に応じて生活をしていただいている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族が対応していただける方はお願いし、美容券をお持ちの方は組合加盟されている美容師さんに来ていただいている。その他の方は近くの美容室にお連れしています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により活動できる方が少なくなったが、買い物や調理に参加していただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・タバコはどなたも召し上がらない。おやつ・飲み物は大体好みそうなものを用意している。買い物のときに選んでいただくこともある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し時間を見計らって誘導している。また自立している方でも午前・午後と尿とりパットのチェックをしている方もいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴槽が大きいので曜日をきめていますが、気があった方と合わせたり、好みの温度調節を考えたり、時間を調節しています。また、入浴剤を希望によって使用しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼食後午睡の時間を設定していますが、その日の気分で買い物に同行してもたったりしています。就寝時間も特にきめておらずテレビをみて徐々にお休みになります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前は編み物・絵手紙を行っていましたが、それぞれが重度化して不可能となっています。中には塗りえや貼り絵をされる方もいます。歌を歌ったり、聞くことが皆様好きでテレビ歌番組を録画し再三見しております。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が金銭感覚がなくなっています。小銭を持っていられる方もいます。お金を探される場合は金庫に入れてあると説明するとたいい理解されます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子使用の方が4名となり日々の散歩も不可能となり、戸外に出られない分施設内のデイやショウトに行き他の利用者様とお話をしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別外出を計画するようにしています。家族は訪問はしてくれますが、それぞれ高齢になり外出できる方は少ないです。	○	個別外出をできるだけ計画する。ご家族にも協力していただく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お誕生日などにご家族から電話がかかってくることもあります。ご近所の方などから贈り物がきたりするとお礼の電話をダイヤルしてあげます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族はもちろんのこと近所の方、以前の職場の同僚やご主人の後輩など来ていただけます。ただしご本人が忘れていて来ていただいた方が気落ちして帰られることもあります。		ご本人の混乱や不穏にならない程度に勧めています。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	需要事項説明書にも記載してありますし、身体拘束はしていません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は付けておりません。日中は玄関は施錠しておりません。寄り添う介護で不穏時も問題ありません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室のドアーはご本人の希望に応じています。夜間は基本的に閉めるようにしていますが小さいガラスの部分から様子を窺えることが出来ます。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	つめきりや小さいはさみをお持ちの方はいられましたが、現在の方は必要がないためどなたもお持ちではありません。特に規制はしていません。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの動きを常に観察し事故予防に努めてます。薬については処方を一薬局に指定し薬袋に記名してもらっています。また、配薬は1週間分看護師が行います。火災については初期消火が行えるよう、消火器の所在等指導しています。」		ご利用者様を含めた訓練を行うようにします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	発熱に対しては水分補給、止血方法、打撲時の冷電法等 行えます。		看護師の指示が理解できるよう指導します。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については、設備を完備しております。地震については特に訓練はしておりません。地域の協力は少ないと思われます。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	毎月のお便りまたは面会にこられた際ご家族にお話具体的な説明をしています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	気づいたことは申し送り簿に記入し全員が統一できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに入っており新しい薬が出ると説明をしている。服薬については配薬どうりに行われている。変化については日々の観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分理解しており、献立にも気を使っている。また日々排泄のチェックを行い長期になる場合は排便等の工夫をします。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ずうがいもしくは、義歯の手入れをし就寝前はボリデントで消毒をし朝使用していただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食チェックしています。水分は三食のお茶と 10時・3時にお茶をお出ししています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザは毎年早めに予約し、利用者様・職員が予防接種を受けています。また、食事の準備にあたる場合は必ず手洗いをしています。開設以来発症していません。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの励行とフキン・まな板・流しの消毒を行っています。食材は毎日スーパーに買いに行きます。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	どなたでも自由に出入りできるようになっていますが、人とうりが少なくお祭りや行事には近所の方も集まってくれます。玄関は常にオープンになっています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの空間も光・音に十分配慮しています。台所の包丁の音や食事の匂いが直接漂ってきますので十分生活感を感じられていると思います。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の片隅や廊下に誰でも座れるソファを用意しています。お一人で座っていただける方もありますし、二人で座っていただけることもあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけご自分のものを持ってきていただいています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	オゾンによる換気を設置しており、汚物は極力早めに処理するようにしています。空調・冷暖房完備しています。ON・OFFに気をつけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現在車椅子使用の方が4名いられますが特に不自由なく生活できています。またトイレや廊下に手すりを設置しております。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	なにげなく寄り添う介護を実行していますので、失禁したり椅子を汚したりされても特に混乱なく生活されています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは駐車場がありますが、職員が十分注意していますのでひなたぼっくなどもできます。		

. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
		○	利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特に力んで取り込むことなく、ゆったりとした毎日を過ごせるようにしています。近所には人家はないが畑の作物・木々の動きで一日話題を欠きません。農家